

名寄市立小・中学校の働き方改革

名寄市立小・中学校働き方改革推進会議、名寄市教育改善プロジェクト委員会教育経営グループ

令和3年度 実感を伴った働き方改革の推進

改革の目的

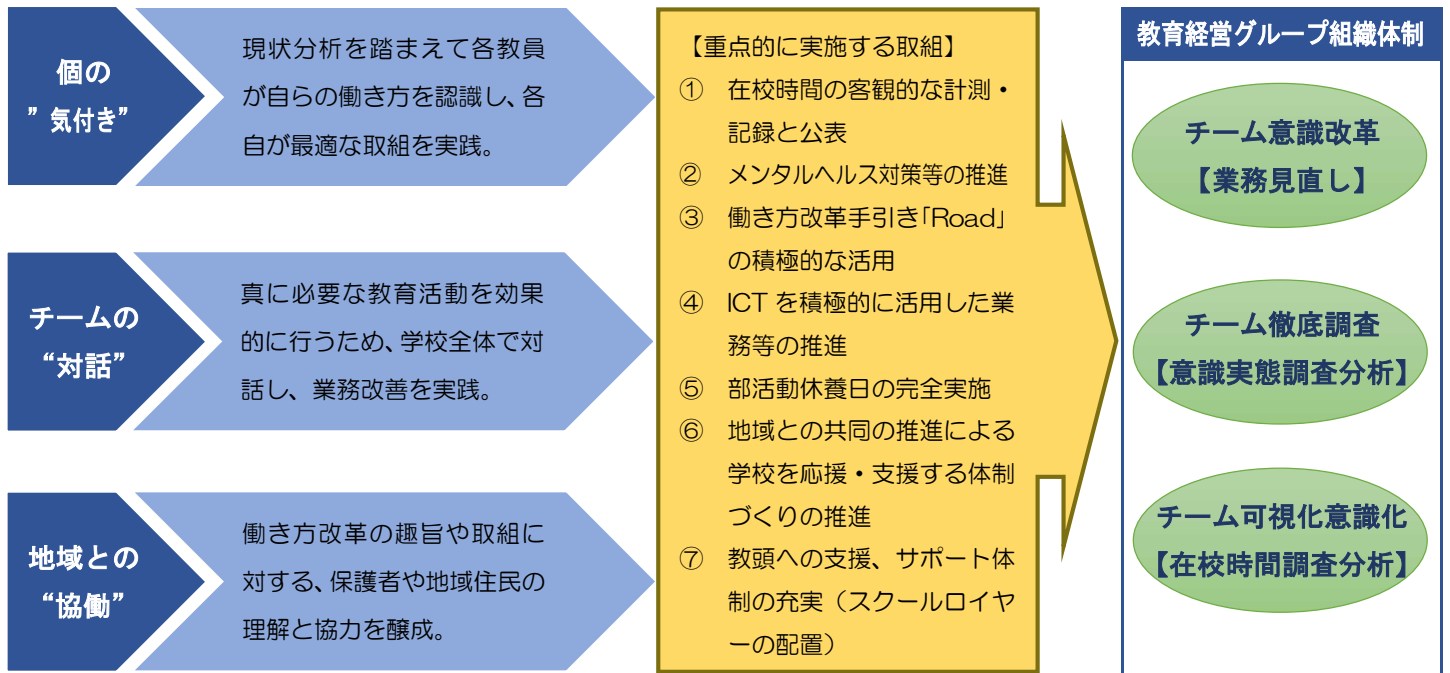
教員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになること。

改革の目標

教育職員の在校等時間から所定の勤務時間を減じた「時間外在校等時間」を……
1 か月で45時間（1年単位の変形労働時間制を適用する場合は42時間）以内、
1年間で360時間（1年単位の変形労働時間制を適用する場合は320時間）以内とする。

改革の推進

- 1 学校規模に応じた働き方改革推進のコアチームを中核とした改善プロセスの推進
- 2 働き方改革推進モデル校を核とした検証改善サイクルの確立及び成果の波及
- 3 名寄市立小・中学校働き方改革推進会議と連携した、学校における働き方改革の推進



令和2年度の働き方改革

学校力向上に関する総合実践事業に基づく包括的な学校改善（校務支援システムなどICTの導入による業務の効率化）

- 市内教職員の「働き方」に関する意識調査
- 市内管理職対象の各校の働き方改革実態調査
- 10月28日 第1回働き方改革推進に関する研修会（働き方に関する意識調査の交流、各校の取組と課題の交流）
- 11月11日 働き方改革推進学習会（働き方改革推進会議からの説明、上川教育局主幹川島政吉様による講演）
- 12月1日 第2回働き方改革推進に関する研修会（現在の実践内容と今後の取り組めること「名寄市働き方アクション7」について）

令和2年度アクションプランに掲げた指標の推進状況

指標	北海道	名寄市
部活動休養日を完全実施している部活動の割合	99.9%	100.0%
変形労働時間制を活用している学校の割合	90.0%	100.0%
定時退勤日を月2回以上実施している学校の割合	88.2%	100.0%
学校閉庁日を年9日以上実施している学校の割合	100.0%	100.0%

名寄市内11小中学校は、アクションプランの示した指標をクリアしている

名寄市働き方改革指標 Nayoro Star Action



Nayoro Star Action は、市内各小・中学校の働き方改革推進委員会の取組を基に考えられました。この5つの Action は、市内 11 校が令和 4 年度より統一して取組を促進して行く上での指標です。校種や学校規模に合わせた Action 1～5 の取組を通し、働き方改革の目標達成と教育活動の質の向上を目指します。

Action 1

意識改革及び環境構築

- 出退勤管理による
在校時間の客観的計測
- 時間を意識した業務の
推進及び諸会議の進行
- 年休・休憩等が
取得しやすい
職場風土の構築

Action 2

業務の見直しと マニュアル化

- 業務処理手順の標準化
 - ・定型業務の自動化
- スクラップ&ビルト及び
教育内容の質的向上

Action 3

ICTの効果的な活用

- タブレット端末を有効
活用した単元計画の作成
- 学校評価、各種調査等の
ICT化
- 教材・教具の整理整頓、
デジタル化
- スズキ校務支援システム
の活用による情報共有

Action 4

地域・関係団体等と 連携した教育活動の推進

- スプレッドシート等を
活用した職員間・学校間の
情報共有
- 地域・関係団体等と
連携した
街頭指導等の外部化

Action 5

部活動指導の負担軽減 (中学校のみ)

- 名寄スタイルに基づく地
域部活動への移行推進
- 「北海道の部活動の在り方
に関する方針」に基づく、
適切な活動日数・活動時間
の設定

《働き方改革推進事業指定校》名寄市立名寄中学校との関連について

必須取組

【ア】 Road 第 5 章に掲載している取組のうち、学校の実情に応じて、取組可能なものを主体的に実施する。

教育経営 G「チーム意識改革【業務内容の改善】」の取組

【イ】 全ての職員の毎月の在校等時間を客観的に計測・記録するとともに、分析・可視化し、ワークライフバランスに係る職員の意識向上を図る。

教育経営 G「チーム可視化意識化【在校等時間調査分析】」の取組

【ウ】 Road 第 5 章に掲載されていない業務改善（すでに実施している学校独自の取組を含む）を実施する。

教育経営 G「チーム徹底調査【意識実態調査分析】」の取組

選択取組

【小中共通①】 ICTを積極的に活用した業務等の推進・学習履歴（スタディ・ログ）などの教育データ、クラウドサービスやデジタル教材の活用、ICTを活用した情報共有等 による校務の効率化に係る取組
・定型業務の機械化、システム化等、ICTを活用した業務効率化の取組

教育指導 G「ICTの効果的な活用」の取組

【小中共通⑥】 若手教員への支援
・優れた教材や指導案等の蓄積の共有や、必要に応じた業務の補助等により、若手教員が孤立しないように支援

教育研究（研修） G「次代を担う人材の育成」の取組

【中学校項目①】 部活動休養日等の完全実施
・部活動休養日 平日 1 日、週末 1 日以上
・部活動の活動時間 平日 2 時間、休業日 3 時間

中学校 4 校長・教頭

名寄市内小・中学校働き方改革の取組事例

<意識改革及び環境構築（取組例）>

- 勤務実態の可視化及び分析による、教職員の内省と意識化
- 業務の質的向上・始終業時間の明確化、業務の平準化
- 各学校での時間外勤務の縮減に向けた取組の共有及び実践
- 有給休暇・休憩時間等の取得の励行、長期休業期間における学校閉庁日の設定
- 安心安全会議と連携した登下校の見守り（安全パトロール）の実施

<諸会議（取組例）>

- 日課の調整による会議時間の確保
- 要検討課題の事前周知による会議進行の円滑化
- 提案文書の様式のマニュアル化
- 「説明を伴う提案」と「書面配付のみの提案」等の分けよる時間短縮

<学校行事（取組例）>

- 「年度の重点経営方針」「年度の指導の重点」を踏まえた行事の精選及び内容の見直し
- 令和2・3年度（コロナ禍）における取組の成果の今後の活用
- 行事の反省直後の次回プランニングの実行とスムーズな引き継ぎ

<授業・教材準備（取組例）>

- 作成した教材等の保管場所の明確化及びデジタル化
- タブレット端末等を有効に活用した教材・教具の共有

<学級通信の発行（取組例）>

- 時間割掲載等を基本とした学級通信の内容の簡素化
- 発行回数を2週に1度にする等、全校で統一した取組

<情報共有（取組例）>

- スプレッドシートを活用した学校間における情報共有
- 正確な文書名及び作成日時を明確にしたデータ保管

<部活動指導の負担軽減（中学校のみ）>

- 部活動休養日の実施の徹底
 - ・平日（週1回以上の休養日）
 - ・週末（週1回以上の休養日）
 - ・週末又は祝日に大会参加した場合の休養日の振替
 - ・学校閉庁日期間中を休養日とすることの徹底
 - ・道民家庭の日（毎月第3日曜日）は、可能な限り休養日
- 上限時間内での活動の徹底

4. 令和4年度の名寄市の働き方改革の方向性

名寄市働き方改革指標Nayoro Star Actionの実践に基づく検証・改善

実践

- 校種・学校規模に合わせた名寄市働き方改革指標「Nayoro Star Action」の実践
- 5つの観点（Action）に合わせて各校のコアチームが中心となり働き方改革を促進

検証

- Nayoro Star Actionの検証
- 教育改善プロジェクト委員会での各校の取組交流・実践評価
- 働き方改革アンケートによる実践の評価

改善

- Nayoro Star Actionの改善
- 各校の実践・評価をもとにNayoro Star Actionの修正
- 令和5年度版Nayoro Star Actionの完成



アクション・プラン（第2期）の期間と目標

期限	令和3年度～令和5年度までの3年間
目標	教育職員の在校等時間から 所定の勤務時間等を減じた時間 ・1か月で45時間（1年単位的に行うため、学校全体で目標の変形労働時間制を適用する場合は42時間）以内 ・1年間で360時間（1年単位的の変形労働時間制を適用する場合は320時間）とする。

月45時間の時間外勤務を達成するためには！？

1月の平均的な勤務日数を20日と考えると、
 $45 \div 20 = 2.25$
 時間外勤務を月45時間以内に収めるには終業時刻から2.25時間（2時間15分）以内に退勤する必要があります。
 16時30分が退勤時間の学校であるなら、18時45分がタイムリミットになりますね。



「7時めし」とは!? 教育経営グループの会議の中では何回か話題が上がっていた取組です。キャッチーなフレーズもさることながら、右の18時45分以前の退勤を目指す名寄小学校のユニークな取組です。「毎日午後7時には家に帰って食事がとれるように！」という思いがこの「7時めし」に込められています。意識化を促進させる良い取組ですね。

Nayoro Star Action★に基づく各小・中学校の働き方改革の取組（例）

Action1 働き方の意識改革

〈意識改革及び環境構築〉



**QRコードによる
在校等
時間管理**

在校等時間の客観的な計測のため導入しています。勤務時間等の集計作業も自動化されるため、迅速に勤務実態を教職員が内省することができます。

Action1 働き方の意識改革

〈意識改革及び環境構築〉



**時間外勤務
縮減に向けた
取組交流**

各小中学校のコアチームでの取組を学校種や規模別に分かれて交流しています。交流した内容は自校に持ちかえり、新しい取組みとして検討し活用されます。（教育改善PI）

Action2 業務の見直しとマニュアル化

〈学級通信の発行〉



**発行を隔週
にするなど
学校で統一**

学級通信は、時間割を発行することを基本にするなど内容の簡素化を図っています。また、発行回数を校内で統一する等、業務の縮減を図っています。

Action2 業務の見直しとマニュアル化

〈学校行事〉

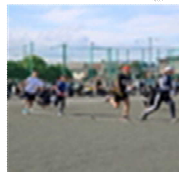


**行事の精選
内容の
見直し**

「年間の重点経営方針」「年間の指導の重点」を踏まえた行事の精選と内容の見直しを図り、目標を焦点化し、内容の簡略化を推進します。

Action2 業務の見直しとマニュアル化

〈学校行事〉



**コロナ禍に
おける
取組の活用**

令和2・3年度（コロナ禍）に取り組んだ行事の成果（分散・短縮・人数制限等）を次年度以降の行事に利活用し、教育活動の質的向上を目指しています。

Action3 ICTの効果的な活用

〈授業・教材準備〉

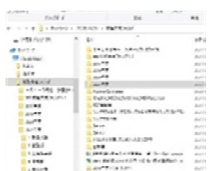


**タブレット
端末等の
有効活用**

タブレット端末の活用を位置づけた指導計画の作成、学校評価や各種アンケートのICT化等を推進し、業務の効率化を図っています。

Action3 ICTの効果的な活用

〈授業・教材準備〉



**教材の
保管と
デジタル化**

各学年・各教科で作成した教材のデジタル化を推進しています。各学校の共有フォルダー（サーバー）の中に保管場所を作り、誰もが利活用しやすい環境を作ります。

Action3 ICTの効果的な活用

〈授業・教材準備〉



**校務支援
システムの
有効活用**

児童生徒名簿、出席簿、成績一覧表、通知表、指導要録等の作成にススキ校務を活用し、情報の共有化を進めることで事務処理の効率性を高めています。

Action4 地域・関係団体との連携

〈情報共有〉



**スプレッド
シートによる
情報共有**

市内全教職員が使用可能なGoogleアプリの活用により、オンタイムでの情報収集や学校間の情報交流が可能になりました。意見集約・日程調整等に利活用されています。

Action4 地域・関係団体との連携

〈意識改革・環境構築〉



**通学路
地域と
連携した
街頭指導**

安心安全会議が主体となり、登下校の見守りを行うことで、健康観察や感染症対策、教材研究の時間に充てる等、子供と向き合う時間を確保しています。

Action5 部活動指導の負担軽減

〈地域部活動への移行〉



**適切な
活動日数
活動時間**

「北海道の部活動の在り方に関する方針」に基づき、活動日数を平日3日（2時間程度）、休日1日（3時間程度）とし、部活動休養日の実施を徹底しています。

Action5 部活動指導の負担軽減

〈地域部活動への移行〉



**名寄
スタイル
の導入**

部活動指導者（中学校）の負担軽減に向け、合同チームの拡充を図り、教育委員会と連携して新しい部活動の形「名寄モデル」に基づく部活動改革を推進しています。